

## ■田んぼの生き物観察会と さくらんぼ狩り

東日本支社 (6月22・23日)

山形県東置賜郡。ファーマーズクラブ赤とんぼ。昨年からはじめたこの観察会は、らでいしゅの会員さんに大好評！ (25組84名参加、倍率3倍)ISO14001を取得したファーマーズクラブ赤とんぼが掲げる「環境教育」の一環でもあり、赤とんぼのメンバーのみなさんのこだわりがそこかしこに。1日目のお弁当に始まり、夕飯、朝ご飯、翌日の昼ごはんに使われた食材はほとんどすべて赤とんぼグループのもの。お弁当には再生紙容器を使用していました。

手づくりの田んぼの生き物観察手帳や、カブトムシの幼虫のお土産、子どもたちがついたお餅のお昼ごはんを食べたりと子どもたちが充分に楽しめる一方で、ライスセンターなど各施設の見学では、代表の伊藤幸蔵さんからの“なぜこうしているのか”という想いのこも

った説明にお父さんたちが深くうなづく場面も見られました。

1泊2日のこのイベントでは、集合場所→牧場・堆肥場見学→宿泊場所→田んぼでの観察会→ネイチャーゲーム→さくらんぼ狩りにいたるまですべて生産者自らが運転するマイクロバスで移動。行く先々でメンバーが待機、撤収も迅速に…と盛りだくさんのスケジュールをあいにくの雨模様の中でもスムーズに進行させていく赤とんぼグループの組織力に感服。

せっかく来てくれた会員さんにはめいっばい楽しんでもらいたい。そして、生産者がどんな思いでどんなふう農業に取り組んでいるのかを見て感じてもらいたい、という強い思い。参加した家族全員がそれらを胸に受け取っていることと思います。



各バスの分乗もこの案内でバッチリ



堆肥場の説明では、完熟堆肥は臭くないと聞き、子どもたちが登りだすシーンも!



いよいよ田んぼの生き物観察。各生産者の田んぼへ別れ、連れられていく…



生き物観察では分けけたエリアごとに生産者がついて、会員さんたちの質問に答えていた。



前日から仕込みお弁当を作ってくれたお母ちゃんかた。(翌日のお餅料理にいたるまでお世話になりました)



お母ちゃんかたの紹介を聞きながらお弁当をほおぼる参加者

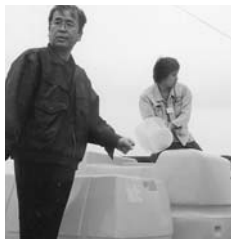
### 交流部会からのイベント助成案が 役員会で承認されました!

今回見学したらでいしゅぼーやの会員交流イベント。生産者をはじめスタッフ一同が「楽しんでもらいたい」一心で活動しているのがひしひしと伝わってきました。想いが先行すれば採算は後回しになりがち。足が出てしまうイベントも多いのだそうです。そこで、Radixの会ではこれらのイベント(産地交流ツアー)に対する助成が出来ないものかと模索して参りました。それぞれの地域やイベントによって規模は様々。どんなかたちで行なうのが最良なのか…。

このたびの第13回役員会議案討議において、以下のような助成を試験的取り組みとして行なうことが承認されました。

- ① イベント参加会員ひとりあたり500円を上限とし、かかった費用についての助成を実施
- ② 助成対象期間を本年3月まで遡り12月までの10ヶ月間とする

来年以降の産地交流ツアーへのRadixの会のよりよい関わり方のためにも生産者みなさんの声が必要です。ぜひ多くのご意見・ご要望をお待ちしております。



田んぼを出て、足を洗う用の水も用意してあった



「我々は田んぼの用水路も浄水するようこんなものを置いています」肥料選びから施設にいたるまで赤とんぼグループの強いこだわりが伝わってきます。



会員さんたち最後の楽しみ企画、さくらんぼ狩り。みなさん食べきれないくらいのお土産に大満足でした。



二日目のお楽しみ。希望者ごとに別れて手づくりする。これは稲ワラで作る「たらばし」。



伊藤代表のお母さんが用意してくれた押し花たち。これら好みであいらいオリジナルコースターやしおりを作る